



TITLE:

開会挨拶

AUTHOR(S):

山極, 壽一

CITATION:

山極, 壽一. 開会挨拶. 京都大学附置研究所・センターシンポジウム: 京都からの挑戦 (第12回) 「地球社会の調和ある共存に向けて」 自由風格(フリースタイル)、京大--報告書-- 2017, 12: 1-3

ISSUE DATE:

2017-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227530>

RIGHT:

開会挨拶

京都大学総長 山極 壽一



皆さん、おはようございます。第12回京都大学附置研究所・センターシンポジウムの開催に際し、一言ご挨拶を申し上げます。

本学は1897年の創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもとに創造の精神を涵養してまいりました。

ところで、国際社会はもちろん、国内においても現代は急激な変化の渦にあることは間違いありません。社会的には民族間、宗教間の対立の激化、国際資源競争や経済活動の不安定化、地球レベルでは温暖化問題と人口爆発、国内におきましても超高齢化社会への対策など、さまざまな問題がわき上がってきております。

このような変化の極めて早い時代だからこそ、地球社会の調和と共存のためには、真理の探究に基づいて、これまでの常識を塗り替えるような新しい発想とその理論構築することが学術教育機関の一翼を担う本学の重要な役目であると考えております。

私は2年数か月前に総長に就任いたしましたけれども、その際に京都大学の目標として「WINDOW 構想」というものを立ち上げました。WINDOW 構想というのは、大学は窓であり、社会や世界に向かって開かれている。そして学生諸君のそれぞれの個性を重んじた教育のもとに、素晴らしい能力を持った人たちを世界や社会へ送り出して活躍していただきたい。そういう夢と希望を持ってつくられたものでございます。

WINDOW、すなわち窓、この一字一字を取って、まず Wild and Wise という構想を掲げました。まず Wise ということが京都大学の入学には求められておりますけれども、それだけではなく、精神的にタフな学生諸君を育て、そして将来には、賢いだけではなくて、野生的な精神を持って活躍してほしいという願いが込められております。

その次の I は International and Innovative、そして N は Natural and Noble、そして D は Diverse and Dynamic、O は Original and Optimistic、そして最後の W は Women and Wish です。

最後の W には京都大学に、ぜひたくさんの女性が入ってきていただき、そして女性の発想のもとに新しい世界を切り開いていただきたいという願いが込められております。

本学には10の学部と18の研究科がございますが、そのほかにも理学、工学、医学、生物学、人文社会学までを網羅する20の附置研究所と研究センターがございます。これは日本の大学の中で一番多い数です。

この附置研究所と研究センターは、国内外の学術研究をリードする先端的・学際的・基盤的課題に取り組み、新たな知を創出する研究活動を行っております。実際にノーベル賞

並びにフィールズ賞の受賞者も輩出しております。

この附置研究所と研究センターの多くは、本学の枠を超えた国内外の研究者との連携共同研究も積極的に推進しております。お互いの協力関係を築き、共同でのシンポジウム開催と、それぞれの公開講座や講演会の実施等を通して、自ら生み出した研究成果を本学の教育活動として社会に還元しております。

さらに文部科学省認定事業、共同利用・共同研究拠点として、理学・工学系、医学・生物学系、人文・社会学系、それぞれの国内外の研究者コミュニティの研究活動に貢献すべく、18の拠点を構成しております。これらの活動は、京都大学の研究活動の可視化やグローバル化の促進に大きく寄与してまいりました。

しかしながら時代の動きは極めて早く、世界の学問の趨勢に歩を合わせつつ、さらに新しい学問分野を開拓するためには、既存の学問領域を超えて連携することが不可欠となっております。

文部科学省は、平成28年度から国立大学を三つの類型に分けることを提案いたしました。一つは、地域のニーズにこたえる人材育成・研究を推進する大学、二つ目は、分野ごとの優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進する大学、最後に三つ目は、世界のトップ大学と伍して、卓越した教育研究を推進する大学でございます。

京都大学は、三つ目の目標のもとに将来計画を立て、これを実行に移しております。広範かつ多様な専門分野を擁する本学の附置研究所と研究センターにおいては学部・研究科を含めた本学のさらなる機能強化に向けた研究力強化、グローバル化やイノベーション機能の強化に取り組んでおります。

附置研究所と研究センターは、京都大学附置研究所・センター長会議をベースにしてKUIC、京都大学附置研究所・センター、Kyoto University Institutes and Centersとして、相互連携のもとに学際的な共同研究を推進するとともに、研究成果の発信のために、これまで11年間にわたって全国の中核都市で毎年シンポジウムを開催してまいりました。

そして学術研究の高度化が進展し、各学問分野の専門化、細分化が進む中、本学の将来構想、先ほど申し上げましたWINDOW構想の柱の一つである独創的な先端研究・融合研究の推進による学術社会のイノベーションの創出のもと、附置研究所と研究センターの強み、特色をさらに伸ばすとともに、異なる視点を持つ研究者の知を結集させ、異分野融合、新分野創生の促進を図ることを目指し、平成27年4月に、京都大学研究連携基盤、Kyoto University Research Coordination Alliance、KURCAを設置いたしました。

本日は、この研究連携基盤の研究活動を踏まえたパネルディスカッションを鲁迅の言葉を借りて「地上にもともと道はないー未踏科学研究ユニットが目指すもの」と題して行う予定でございます。

パネルディスカッションに先立ち、午前の講演として、フィールド科学教育センターからは「人はなぜ、森で感動するのか」、生態学研究センターから「森林の『メタボ化』を診

断する」、東南アジア研究所からは「地域研究で考えるリアルなアジア」、午後は、ウイルス・再生医学研究所から「ウイルス化石が語る生命の進化」、こころの未来研究センターから「芸術とはどんな〈出来事〉なのか?」、化学研究所からは「生命を支える海の微量元素」、基礎物理学研究所からは「ブラックホールだらけの宇宙」というお話をさせていただく予定でございます。

何か、タイトルを聞いただけではわからん発表がございますけれども、皆さん、大変面白い学者でございます。京都大学が、いかに自由な発想に基づき、広大な精神世界のもと、自在に考えを繰り広げていくかということを目の当たりにしていただきたいと思っております。

本シンポジウムの企画の目的は、次の世を明るくするために、京都大学の研究者が社会に語りかけることでございます。我々研究者は、社会に対するリスペクトを持って、この地球という惑星を希望の地にできると信じて努力を続けております。その姿をぜひ、ご覧になっていただきたいと思います。

特に本日は多くの高校生諸君が来聴されております。これから次世代を担う若者との交流の場としても考えておりまして、京都からの挑戦として「自由風格 フリースタイル、京大」に耳を傾けていただければと思います。本日は、どうぞお楽しみください。ありがとうございました。